

令和 3 年度介護事故報告総括

令和 3 年度介護事故報告集計結果について

1 項目別集計結果 ※市外の住所地特例にかかる利用者の事故報告も含む

(1) 事故報告件数

①介護度別

※小数点以下四捨五入

	H29	H30	R1	R 2	R3	割合 (%)
要支援 1	2	2	4	1	0	0%
要支援 2	6	10	8	1	6	2%
要介護 1	24	39	28	32	32	10%
要介護 2	49	66	51	61	66	21%
要介護 3	68	70	73	87	65	21%
要介護 4	76	103	86	70	56	18%
要介護 5	46	71	40	33	42	14%
その他 (職員含む)	33	34	8	1	42	14%
合計	304	395	298	286	309	100%

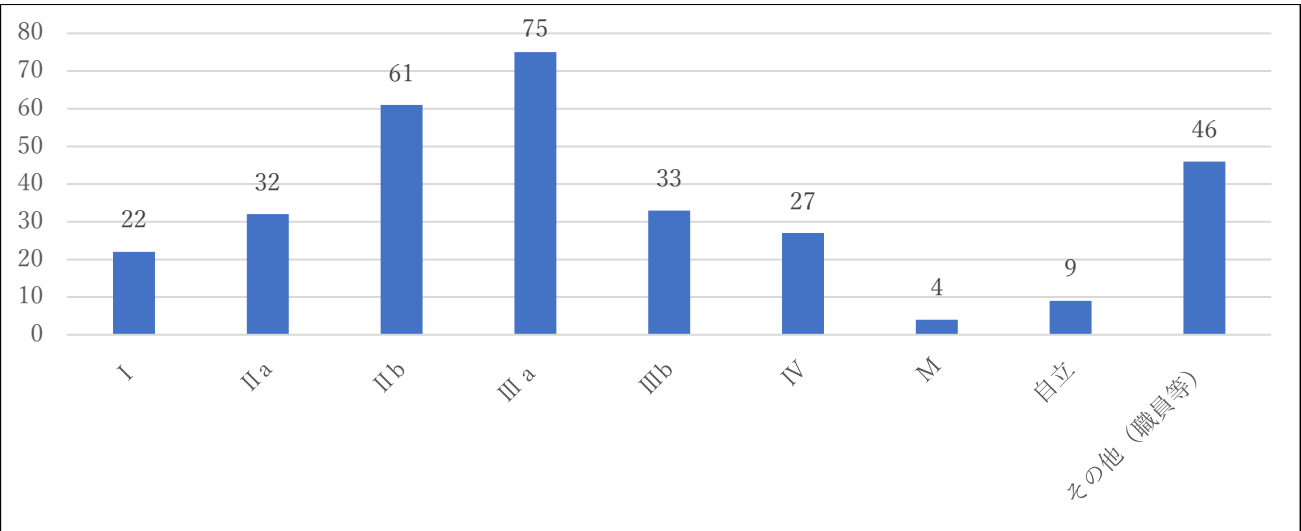
令和 3 年度の事故報告件数は309件であり、前年度より増加している。前年度との比較では、「要介護 3」及び「要介護 4」は減少しているが、「その他 (職員含む)」が増加している。
介護度別の件数は、「要介護 2」が66件 (21%) と最も多く、続いて「要介護 3」が65件 (21%) であった。

①- 2 指定地域密着型サービスのみ

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	その他	合計
R 3	0	1	15	37	40	27	20	17	157

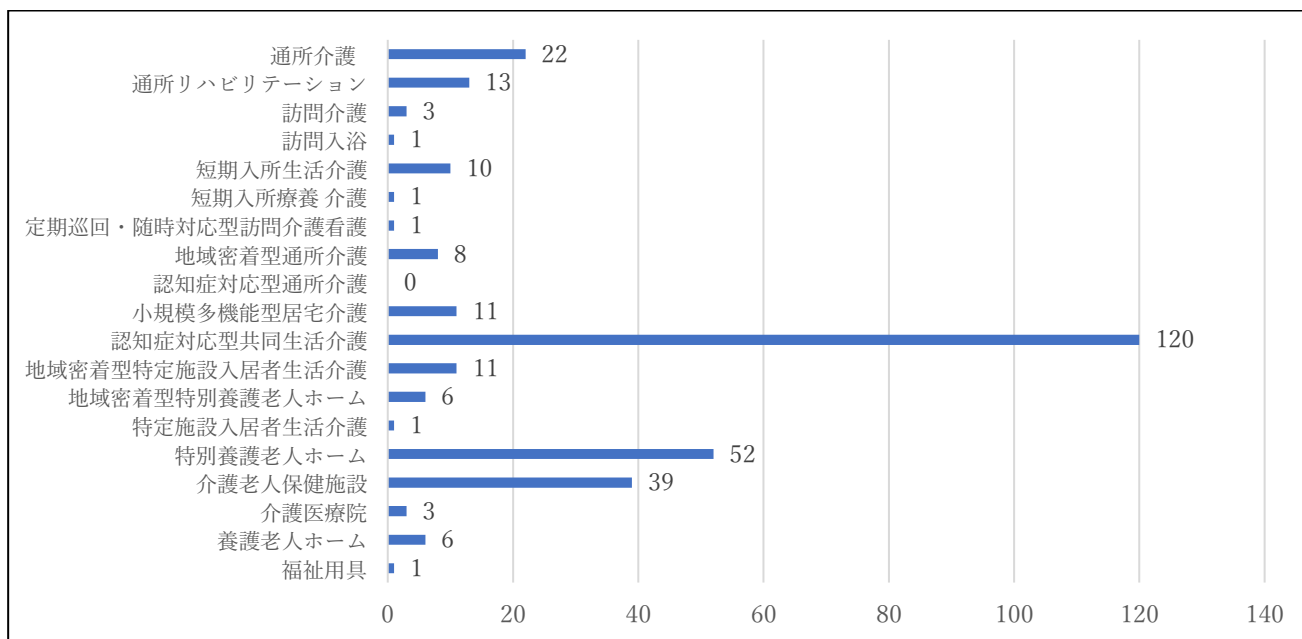
指定地域密着型サービスのみの介護度別事故報告件数は、「要介護 3」が40件(25%)で最も多く、続いて「要介護 2」が37件(24%)であった。

②認知症自立度別



認知症自立度別の件数は、「Ⅲa」が75件（24％）と最も多く、続いて「Ⅱb」が61件（20％）であった。中度認知症利用者の事故発生が多い状況となっている。

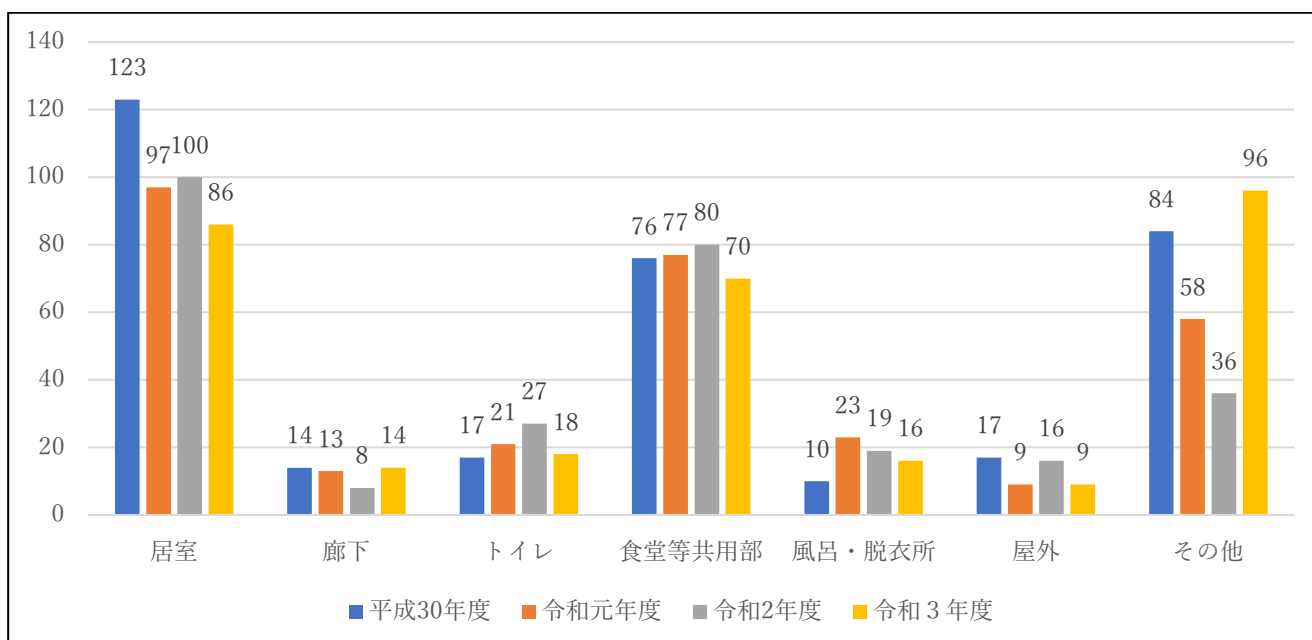
③サービス種類別



サービス種類別の件数は、「認知症対応型共同生活介護」が120件（39％）と最も多く、続いて「特別養護老人ホーム」が52件（17％）であった。

(2) 事故発生場所

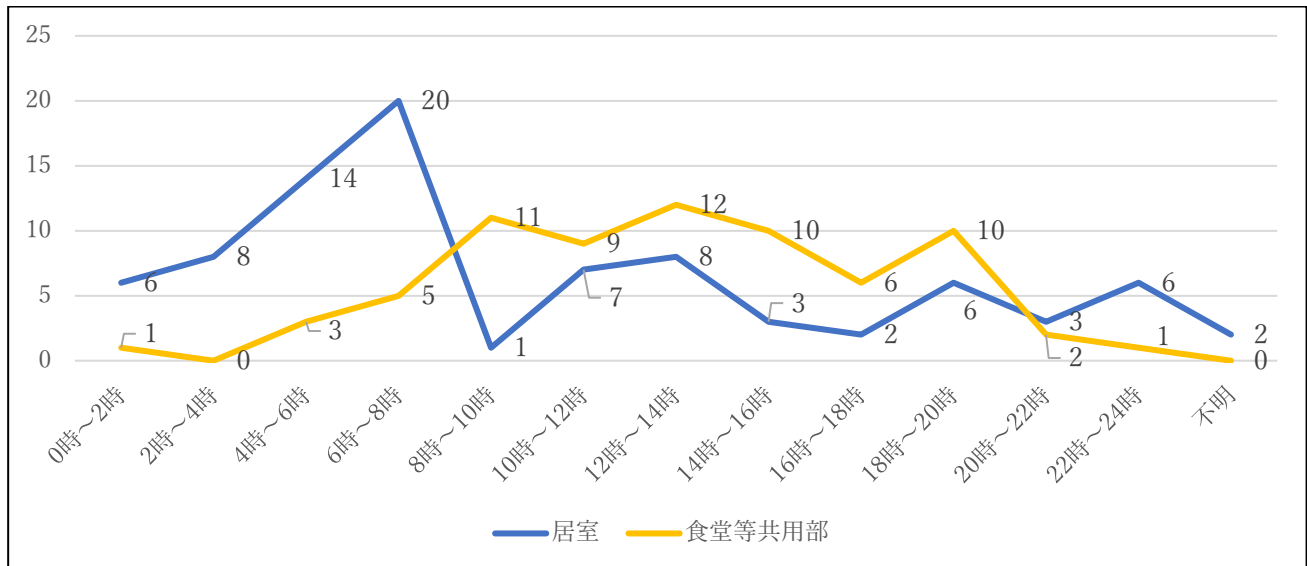
①年度別



事故発生場所別の件数は、「居室」が86件（28％）と最も多く、続いて「食堂等共用部」が70件（23％）であった。居室は職員の目が届きにくい環境にあることも一因であると考えられる。

「その他」については、機能訓練室での転倒、職員の新型コロナウイルス感染（自宅待機中の発生を含む。）などがあった。

②時間帯別



事故発生の多い居室と食堂等共用部の件数を時間帯別にみると、居室での事故は、6時から8時までが最も多い。起床の時間帯と重なり、利用者の移動や介助が必要な場面が多くなることが一因と考えられる。食堂等共用部での事故は、8時から20時までの間に集中している。日中は利用者が食堂等共用部で活動する機会が多いことが一因として考えられる。

③サービス種類別

	居室	廊下	トイレ	食堂等 共用部	風呂・ 脱衣所	屋外	その他
通所介護		2		8	1	1	10
通所リハビリテーション			1	1	1	3	7
訪問介護	1						2
訪問入浴							1
短期入所生活介護	6	3	1				
短期入所療養介護	1						
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1						
地域密着型通所介護			1	5	2		
認知症対応型通所介護							
小規模多機能型居宅介護	3		2	3		1	2
認知症対応型共同生活介護	34	3	7	32	4	1	39
地域密着型特定施設入居者生活介護	10					1	
地域密着型特別養護老人ホーム	1			1	1	1	2
特定施設入居者生活介護	1						
特別養護老人ホーム	19	4	2	12	6	1	8
介護老人保健施設	5		3	8	1		22
介護医療院	2						1
養護老人ホーム	2	2	1				1
福祉用具							1

(3) 事故発生要因

①年度別

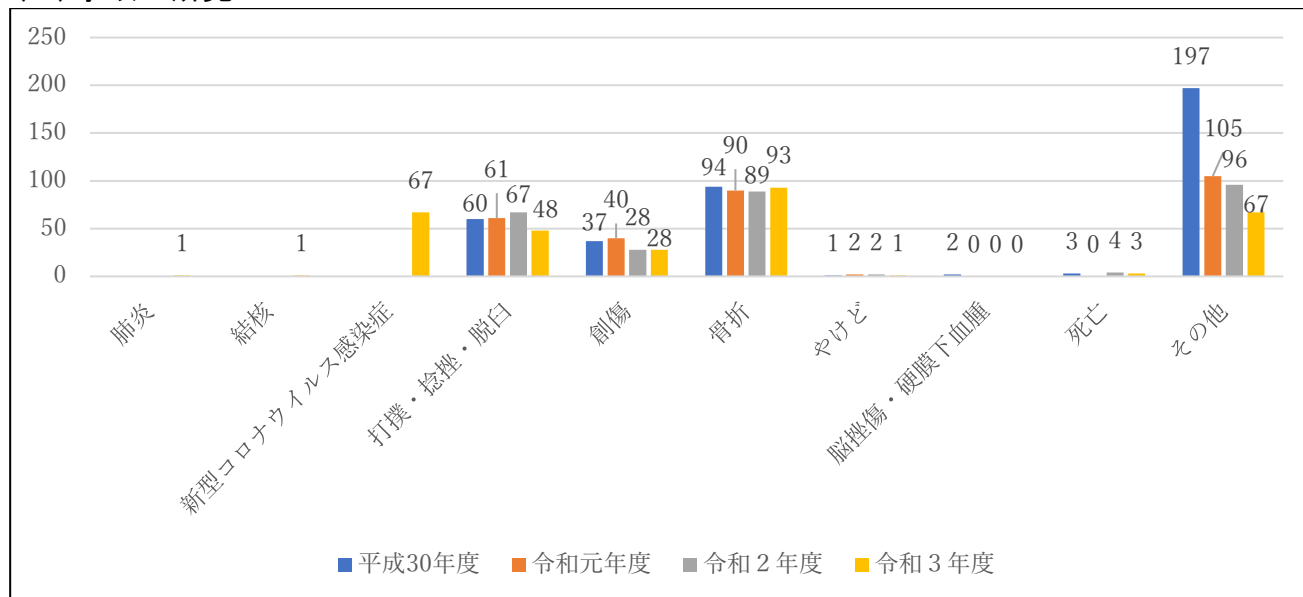
※割合：小数点以下四捨五入

	H29	H30	R1	R2	R3	割合 (%)
転倒・転落	153	164	168	157	148	48%
感染症・結核	59	106	12	3	68	22%
外傷	26	33	31	33	5	2%
誤薬・与薬もれ	13	41	34	45	27	8%
離設	6	8	8	14	3	1%
誤嚥・誤飲	4	8	13	8	5	2%
自傷	1	0	0	1	0	0%
その他	42	35	32	25	53	17%
合計	304	395	298	286	309	100%

事故発生要因別の件数は、「転倒・転落」が148件（48%）と最も多く、続いて、「感染症・結核」が68件（22%）であった。転倒・転落の状況については、「車椅子から立ち上がろうとした」、「トイレに行こうとした」などであった。事故発生要因はどの年度も転倒・転落が最も多い。

また、感染症・結核の件数が前年度より増加している要因は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大であると考えられる。

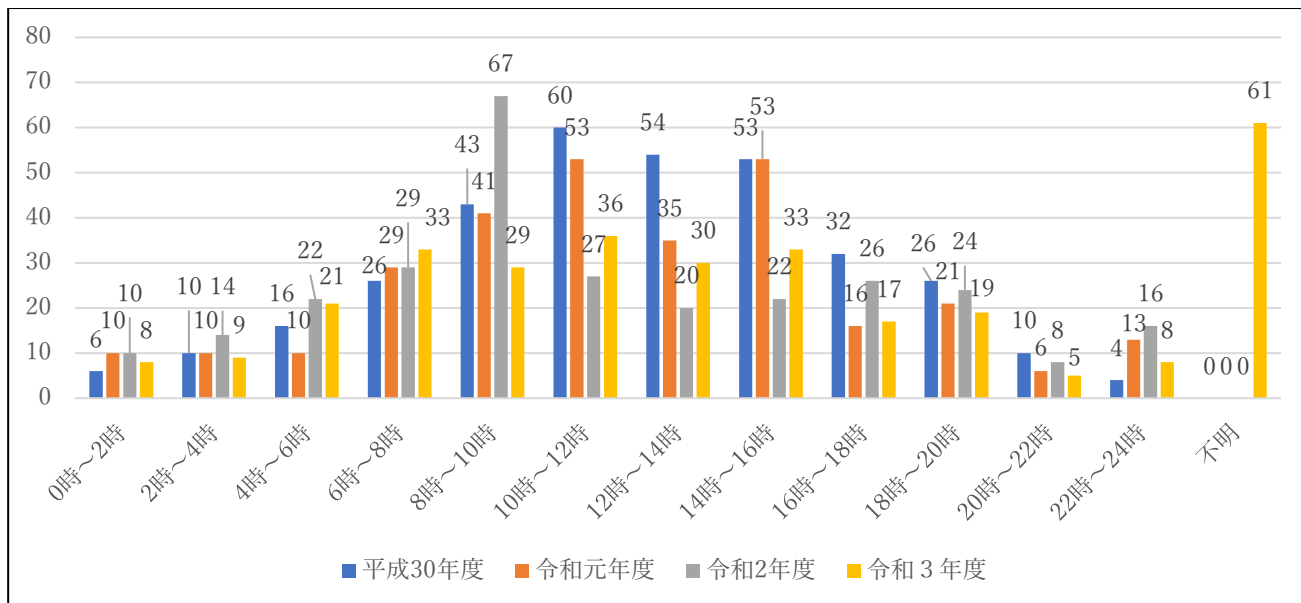
(4) 事故の所見



事故の所見別の件数は、「骨折」が93件（30%）と最も多く、続いて「新型コロナウイルス感染症」が67件（22%）、「打撲・捻挫・脱臼」が48件（16%）であった。事故発生要因として、転倒・転落が最も多いため、その結果として骨折等の外傷につながっていると考えられる。また、新型コロナウイルス感染症については、2月以降の件数が増加しており、第6波の影響によるものと考えられる。

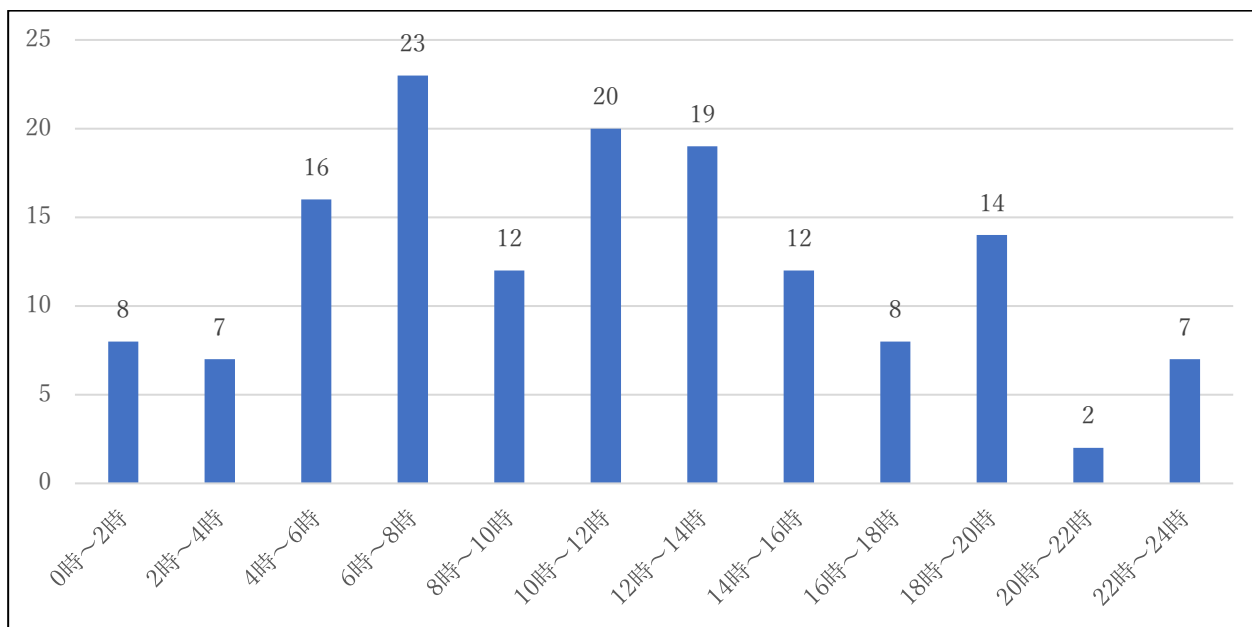
(5) 発生時間

①年度別



発生時間別の件数は、「10 時～12 時」が 36 件(12%)と最も多く、「6 時～8 時」が 33 件(11%)、「14 時～16 時」が 33 件(11%)であった。比較的活動の多い時間帯で事故が発生している。発生時間は、毎年度同様の傾向がみられるため、事故の起こりやすい時間帯を把握することで予防対策の確認につながると考えられる。

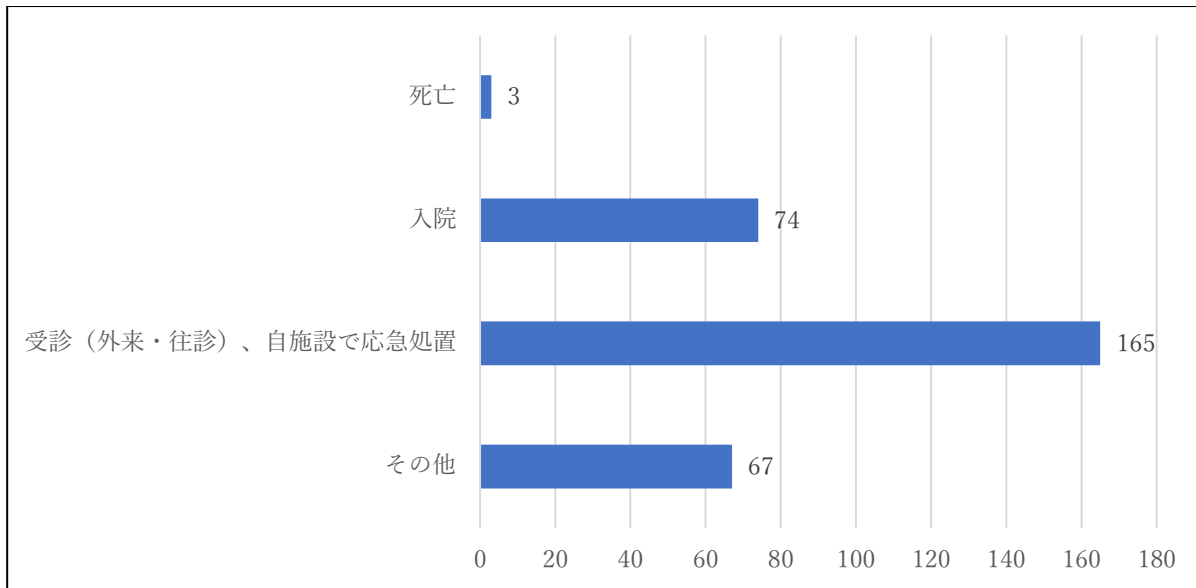
②「転倒・転落」の発生時間



事故発生要因で最も多い転倒・転落を時間帯別でみると、「6 時～8 時」が 23 件 (16%) と最も多く、続いて「10 時～12 時」が 20 件 (14%)、「12 時～14 時」が 19 件 (13%) であった。起床後の身支度や食事等で各利用者への見守り・介助が多くなる時間帯に多く発生しているため、全体の状況に職員の目が届きにくくなる状況あることが一因として考えられる。

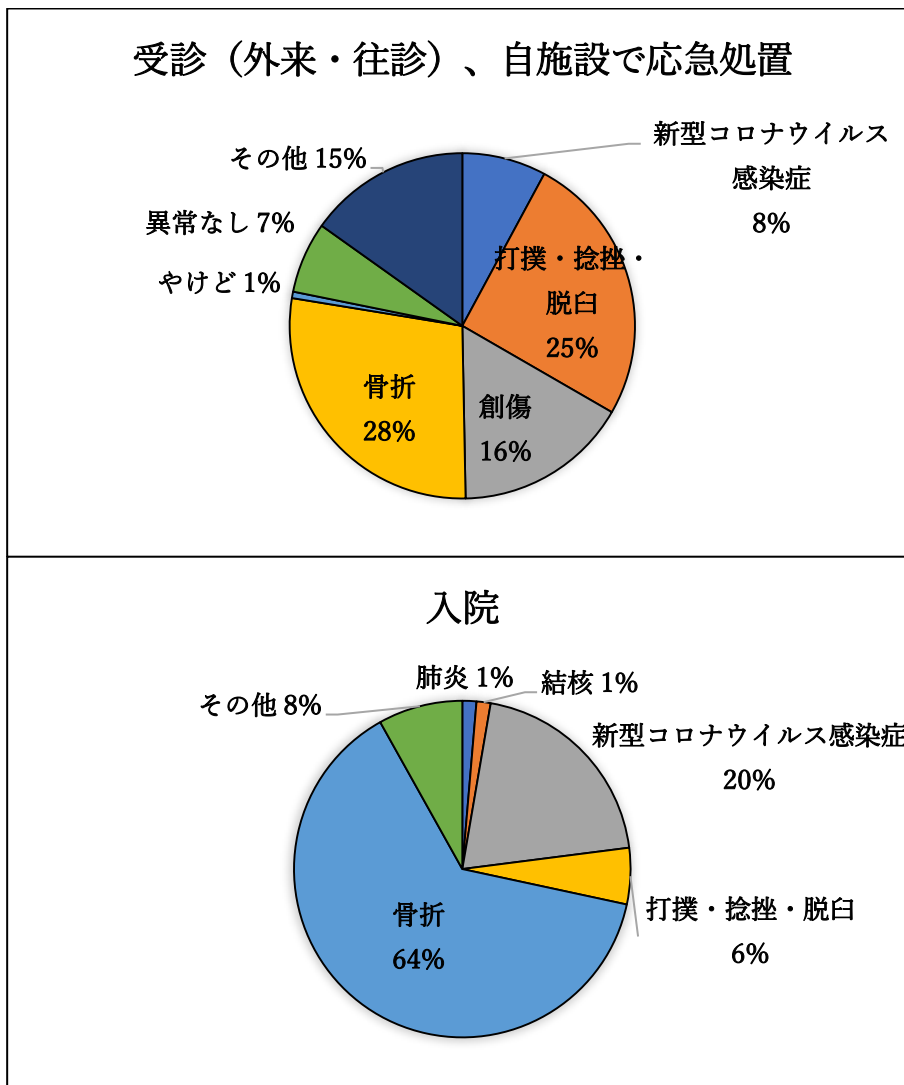
(6) 事故状況の程度

① 事故状況の程度



事故状況の程度別の件数は、「受診（外来・往診）、自施設で応急処置」が165件（53%）で最も多く、続いて「入院」が74件（24%）であった。

② 内訳



「受診（外来・往診）、自施設で応急処置」の内訳については、「骨折」が28%と最も多く、続いて「打撲・捻挫・脱臼」が25%、「創傷」が16%となっている。

「入院」の内訳については「骨折」が64%と最も多く、続いて「新型コロナウイルス感染症」が20%となっている。

(7) 事故報告がなかった鹿屋市内の事業所一覧

		事業所数（対象事業所数）		
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
居宅介護支援事業者		38 (38)	37 (37)	37(37)
訪問介護		33 (36)	36 (36)	33(36)
訪問入浴介護		1 (1)	1 (1)	0(1)
訪問リハビリテーション		7 (7)	7 (7)	8 (8)
訪問看護		10 (11)	11 (11)	11(11)
居宅療養管理指導		20 (20)	20 (20)	19(19)
通所介護		6 (29)	18 (29)	19(32)
通所リハビリテーション		6 (15)	8 (14)	8(14)
短期入所生活介護		2 (9)	1 (9)	4(9)
短期入所療養介護		4 (4)	4 (5)	4(5)
特定施設入居者生活介護		0 (1)	1 (1)	1(1)
福祉用具貸与・特定福祉用具購入		6 (6)	6 (6)	6(6)
指定介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）		0 (8)	0 (8)	0(8)
介護老人保健施設		0 (4)	0 (4)	0(4)
介護医療院		3 (3)	3 (4)	1(4)
定期巡回・随時対応型訪問介護看護		1 (2)	1 (2)	1(2)
地域密着型通所介護		20(31)	21(28)	24(27)
認知症対応型通所介護		4 (6)	4 (5)	5(5)
小規模多機能型居宅介護		0 (6)	0 (6)	2(6)
認知症対応型共同生活介護		5 (34)	1 (34)	3(33)
地域密着型特定施設入居者生活介護		0 (2)	0 (2)	0(2)
地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護		1 (1)	0 (1)	0(1)
合計		167 (274)	180 (270)	186 (271)
割合		61%	67%	69%
再掲 (地域密着型のみ)	合計	31(82)	27(78)	35(76)
	割合	37%	34%	46%

事故報告がなかった事業所については、表のとおりである。